

令和7年9月29日

太田市議会議長 星野 一広 様

議会運営委員会委員長 高木 きよし

議会運営委員会視察報告書

- 1 期 日 令和7年7月7日（月）から7月9日（水）までの3日間
- 2 視 察 地 京都府京都市、三重県四日市市、三重県伊勢市
- 3 視察事項 (1) 京都府京都市
 - ・議会政策提言の強化に向けた取り組みについて
 - ・見える市会伝わる市会の取り組みについて(2) 三重県四日市市
 - ・議会政策サイクルについて(3) 三重県伊勢市
 - ・議会BCPについて
 - ・広報広聴への取り組みについて
- 4 派遣委員 8名
高木 きよし 委員長 八長 孝之 副委員長
大川 敬道 委員 高橋 えみ 委員
久保田 俊 委員 町田 正行 委員
白石 さと子 委員 松浦 武志 委員
- 5 同 行 者 渡辺 謙一郎 副議長
- 6 随 行 者 議会事務局 副局長 秋庭 尚広
課長補佐 佐野 治久
- 7 視察概要 別添のとおり

(1) 京都府京都市会 視察概要

京都市の概要 (令和7年6月1日現在)

- ・面積 827.83km² ・人口 1,434,536人
- ・市制施行 明治22年4月1日
- ・一般会計予算額 令和7年度：9,575億円
令和6年度：9,616億円
- ・議員定数 67人
- ・政務活動費（議員一人当たりの月額）400,000円
※会派に属する場合は、+月額140,000円

視察事項

- ・議会政策提言の強化に向けた取り組みについて
- ・見える市会伝わる市会の取り組みについて

○目的

議会の政策形成機能の充実を図る取り組みについて調査し、本市議会による政策立案や提言をより実践的に進展できる方策や、市民に開かれた議会の実現を図るにあたり、とくに若年層による議会への興味関心を惹きつける取り組みについて調査し、開かれた議会を目指す上での参考とするべく、視察研修を行うものである。

○所感等

京都市会では、市会基本条例に規定する「政策研究会」の積極的な活用等を通じて、より一層市会として政策提案機能を発揮するよう努め、議員全員の共同提案による条例を上程し制定するといった実績を上げている。

本市議会においては執行者への提言として一般質問は積極的に行われているが、重要事項や早急に改善が必要な事項等については議会全体の意見として政策提言を行う必要性があると感じた。

議会政策提言の事例として説明があった条例制定の取り組みについては大変参考になり、今後、本市議会においても議会政策提言に向けた仕組みやプロセスを作っていけるようにしていきたい。

政策研究会については、その設置を明確にし、議員間同士の討議の充実を図っており、本市議会においても取り入れていきたいと考える。

また、市内に在住または通学する小学校4～6年生の児童とその保護者を対象とする「親子ふれあい議場見学会」や、及び市内の小学校4～6年生までの児童及び中学生を対象とする「こども議場見学」を実施し、議席に座っ

て市会の仕組み役割を学ぶほか、音響や映像の調節を行う調整室など普段見ることができない議場の裏側も体験も通じて、市会や議場についての学びを深めてもらう取り組みを行っている。

次代を担う子供たちに市政の興味と関心を持ってもらうため、子供の頃から実際に議場でどんなことをしているのかを学ぶことはとても大事なことであり、小学生から中学生・高校生と段階を踏みながら、いろんな形で議場に触れることによって、政治にも関心が出てくるとともに、子供を通じて親が学べるという機会にもなるのではと考える。

高校生や大学生と連携した市会日程や周知ポスターのデザイン制作については、若者の斬新な発想で目を引くデザインになっており、このような市議会からの周知の仕方を若者にやってもらうことが政治に関わっていく方法の一つだと感じた。

議会へのイメージとして堅苦しい印象を持たれるため、今回のような若者の自由な発想で興味を惹きつける内容は大変参考となるものであり、特に若年層の政治離れや投票率の低下を考えると、本市議会においても積極的に SNS の活用やポスター制作について今後取り組んでいく必要があると思われる。

(2) 三重県四日市市議会 視察概要

四日市市の概要 (令和7年6月1日現在)

- ・面積 206.50km² ・人口 305,554人
- ・市制施行 明治30年8月1日
- ・一般会計予算額 令和7年度：1,453億2,000万円
令和6年度：1,373億2,000万円
- ・議員定数 34人
- ・政務活動費（議員一人当たりの月額）70,000円

視察事項

- ・議会政策サイクルについて

○目的

議会の政策形成機能の充実を図る取り組みについて調査し、本市議会における議員の役割や政策立案能力の向上を図り、市の発展に寄与する議会の機能強化を図る上での参考とするべく、視察研修を行うものである。

○所感等

四日市市議会では、令和元年度から8月定例会において前年度の決算を審査する中で、出された意見を集約し、次年度の予算編成などに反映するよう市長へ提言を行う取り組みを行い、また、2月定例会においては、次年度の予算案の審査を行う際に、8月定例会において行った提言の内容が予算案に反映されているかどうかのチェックを行うといった、決算審査と予算審査を連動させる政策サイクルの仕組みが形成されている。

本市議会では予算・決算とも特別委員会にて審査を行っているが、決算審査と予算審査を連動させるために、常任委員会委員の任期を2年にして政策サイクルを導入しており、非常に斬新であると感じた。

予算や決算の委員会が常任委員会化していることや、決算審査と予算審査を連動させる仕組みが整備されており、決算委員会で出た意見が次の予算にどう反映されたかの確認は必要であり、大いに参考となる取り組みであった。

また、四日市市議会では議員間討議の活性化のため議員政策研究会を設置していることや、通年議会や反問権の導入にも取り組んでおり、議会の充実を図っている。

本市議会では現在、討議の場は委員会が主であり、会派を超えた意見交換や政策等について自由に議論を行える場を新たに設置しても良いのではないかと考え、議員政策研究会や分科会を作って政策論議をすることで、その成果

として市長への政策提言を行ったり、条例制定にも繋がることから、市政に反映させる取り組みとして参考としていきたい。そのためには、議員間討議ができる仕組みを作るだけでなく、議員個人の力をきちんと備え中身を充実させていく必要があると思われる。

反問権については、本市議会において現行では事前通告及び質問要旨のヒアリング等を行っていることから、反問権を与えたことによって不毛な議論がずっと続いていく可能性があり、導入の必要性はないと思われ、当面は制度の内容を理解しておけばよいと考える。

(3) 三重県伊勢市議会 視察概要

伊勢市の概要 (令和7年5月末現在)

- ・面積 208.37km² ・人口 117,920人
- ・市制施行 平成17年11月1日
- ・一般会計予算額 令和7年度：607億5,300万円
令和6年度：549億4,900万円
- ・議員定数 24人
- ・政務活動費（議員一人当たりの月額）30,000円

視察事項

- ・議会BCPについて
- ・広報広聴への取り組みについて

○目的

災害時における議会及び議員の行動指針を明確化することの必要性、有効性について調査し、執行部との連携を図りながら議会の機能を果たすこと、また、市民に開かれた議会の実現を図るための広報広聴に関する取り組みについて調査し、市民参画を高め、より透明性の高い議会運営を目指す上での参考とすべく、視察研修を行うものである。

○所感等

伊勢市では、平成23年3月に発生した東日本大震災において、これまでの想定を超える巨大な地震・津波が発生し、広大な範囲に甚大な被害をもたらした。その被災地域では補正予算を含む多くの専決処分が行われ、議会の基本的な機能が果たされなかった。これらの経緯と教訓から、大規模災害時等の非常時においても、二元代表制の一翼として議会の権能における責務を継続して果たすため、令和元年10月に伊勢市議会大規模災害対応基本方針（平成28年制定）を基礎にし、大規模災害等が発生したときに必要となる組織体制や議員・議会事務局職員の行動基準などを定める伊勢市議会業務継続計画（「議会BCP」）を策定した。

本市議会では現状、議会BCPの策定をしていないが、今後、感染症や水害、震災等への対応の備えとして策定し、議員や事務局の役割、情報伝達経路などをより明確にしておく必要がある。策定にあたっては、実際に災害が起こった際の行動計画も数パターンを考え、万が一繋がらなかった時のこともある程度想定しておく必要があり、災害時や緊急時においても、安定して機能

する議会 BCP を作らなければならないと感じた。併せて、伊勢市では市議会用の防災服を貸与しており、議員自らの役割を考えた場合、今後、本市議会においてもこのような備えが必要であると思われる。

また、伊勢市議会では、未来を担う高校生が模擬議会を体験することにより、市政や議会など政治に関心を深めてもらうことを目的に令和元年度より「伊勢市高校生議会」を開催し、令和7年度からは「高校生との意見交換会」を中心とした内容に変更して実施している。さらに、広報広聴機能の充実を図る取り組みとして「議会ツアー」を開催し、市内に在住または通勤・通学する方を対象に実施している。

議会ツアーについては小学生が主であるが、一般の大人も参加できるという取り組みは本市議会においても必要だと思われ、特に大人になればなるほど議会や政治を身近に感じにくくなってきてしまう傾向があることから、大人でも楽しめるような内容、また子供と一緒に参加して議会への親しみを感じてもらえるような内容で取り組んでいきたいと考える。

高校生との意見交換会については、本市議会においても現在実施しているが、中身を変えながらやっていかないとマンネリ化し行き詰まってしまうため、高校生たちに良かったと感じてもらえるよう、やり方をよく考えて取り組んでいく必要があると思われる。